「水の日」・「水の週間」に関する アンケート調査結果

国土交通省 水管理・国土保全局
水資源部水資源政策課

令和7年10月

はじめに

国土交通省

「水の日・水の週間」に関するアンケートの集計結果を取りまとめましたので、ご報告いたします。

今回の調査結果は、国民の皆様に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めていただくため、「水の日」・「水の週間」に関する有効な普及啓発活動等を検討するための基礎資料として活用させていただきます。

調査にご協力いただきましたモニターの皆様には深く感謝申し上げます。

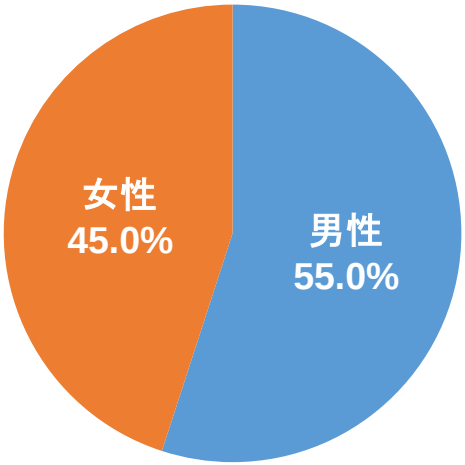
※1. グラフの結果数値(%)は、少数点第2位を四捨五入しており、内訳の合計が100%にならない場合があります。
※2. 本アンケートの回答者の一部には、昨年度の回答者が含まれる場合がございます。

調査期間	対象者	回答者	回答率
令和7年8月1日(金) ～ 令和7年8月21日(木)	1，073名	1，010名	94．1%

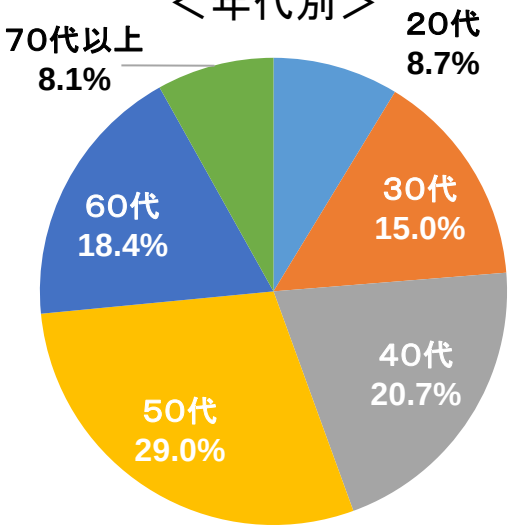
回答者の属性（N=1,010）

国土交通省

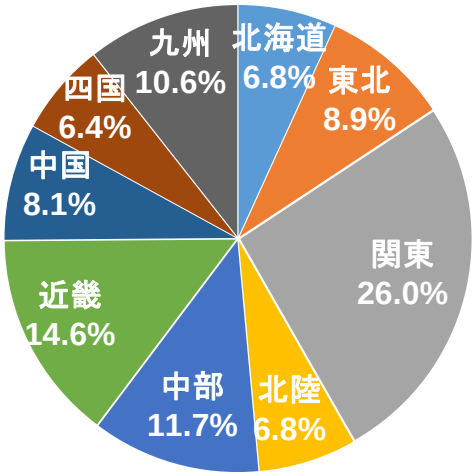
＜性別＞



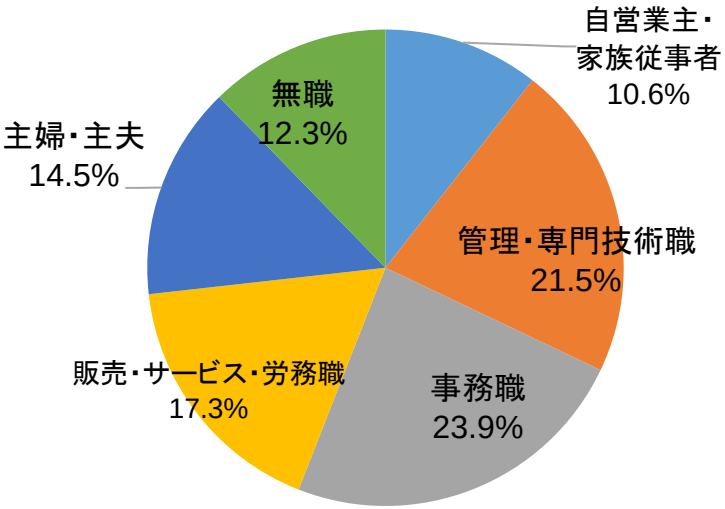
＜年代別＞



＜ブロック別＞



＜職種別＞

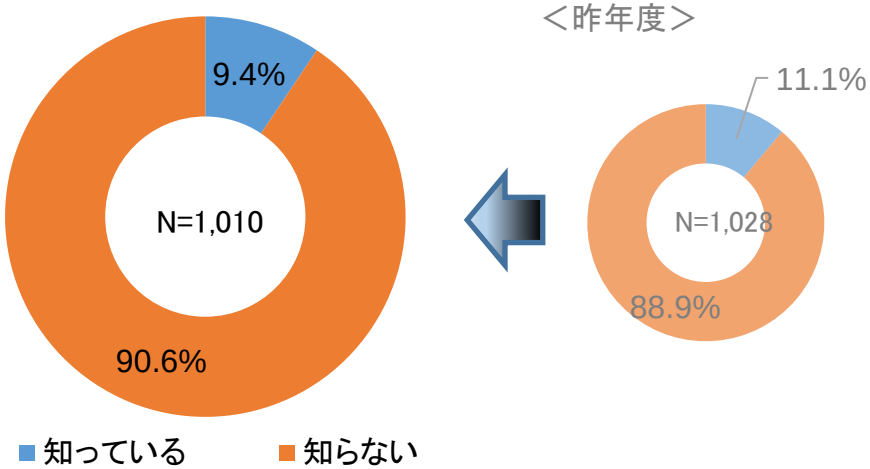


「水循環基本法」の認知度 【問1】

国土交通省

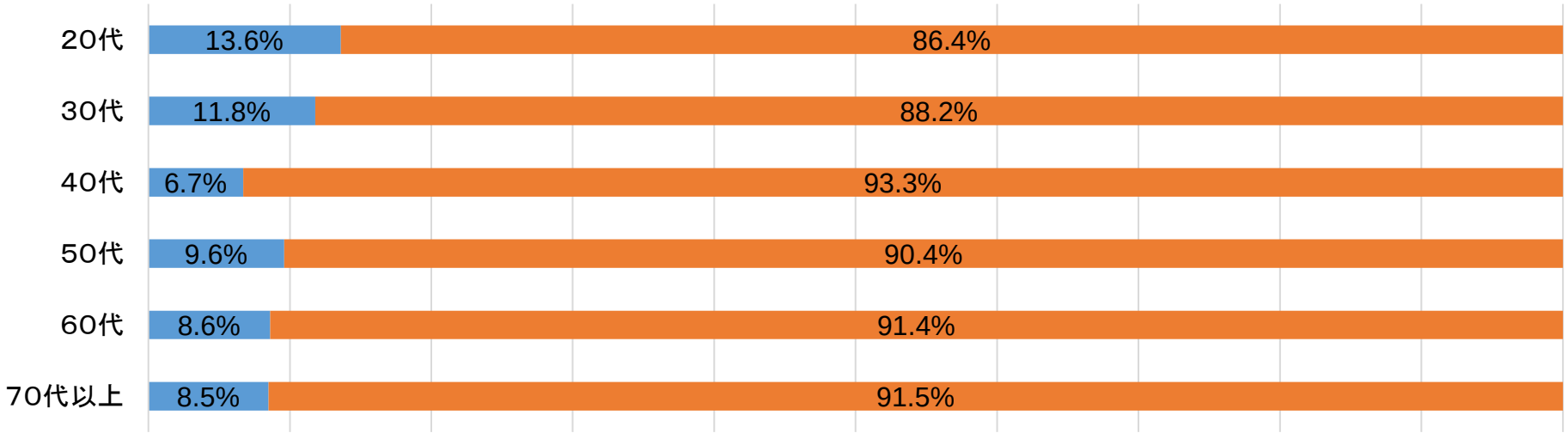
問1．平成26年に成立した「水循環基本法」という法律があることを知っていますか。

＜全体＞



- 「水循環基本法」の認知度は、全体で9．4%でした。
- 年代別の認知度では、20代が13．6%で最も高く、30代が11．8%と続きました。
- 昨年度との比較では、「水循環基本法」の認知度が、全体で11．1%から9．4%に減少しました。50代では7．8%から9．6%に増加したのに対し、それ以外の世代では認知度が昨年よりも減少しました。

＜年代別＞

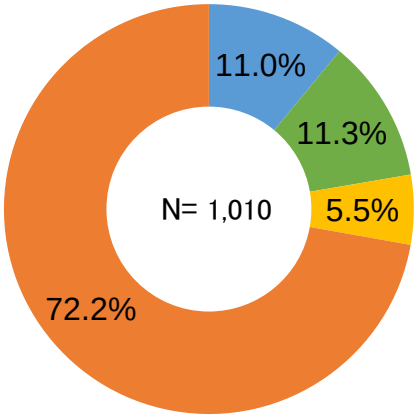


「水の日」・「水の週間」の認知度 【問2】

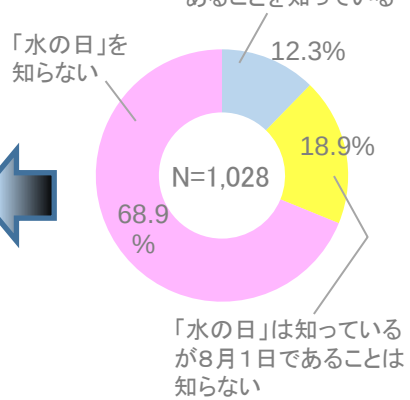
国土交通省

問2．８月１日が「水の日」、この日から１週間が「水の週間」であることを知っていますか。

＜全体＞



＜昨年度＞

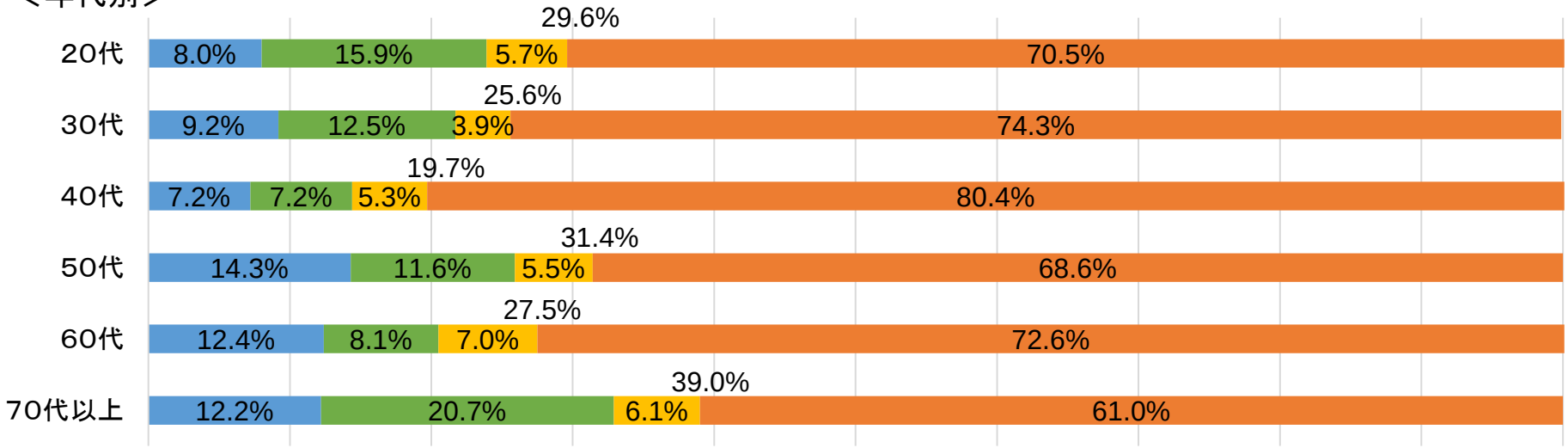


- 「水の日」・「水の週間」の認知度※は、全体で27．8%でした。
- 年代別の認知度では、70代以上が39．0%で最も高く、50代が31．4%、20代が29．6%と続きました。
- 昨年度から質問を変更し、「水の日」のみならず、「水の週間」の認知度を問う質問としています。

※「水の日」・「水の週間」の認知度とは、「水の日」、「水の週間」のどちらか、または両方を知っていると回答した割合。

■「水の日」、「水の週間」を両方とも知っている　■「水の日」だけ知っている
■「水の週間」だけ知っている　■「水の日」、「水の週間」を両方とも知らない

＜年代別＞

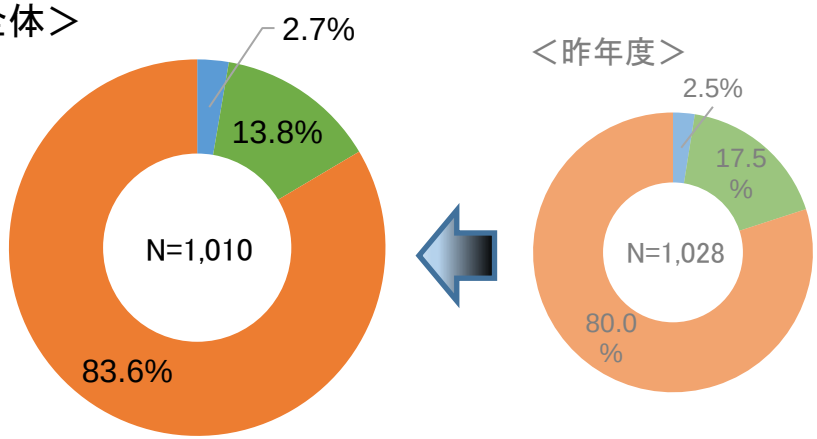


「水の週間関連行事」の認知度 【問3】

国土交通省

問3. 記念式典「水を考えるつどい」など、水の週間関連行事を政府や地方自治体が行っていることを知っていますか。

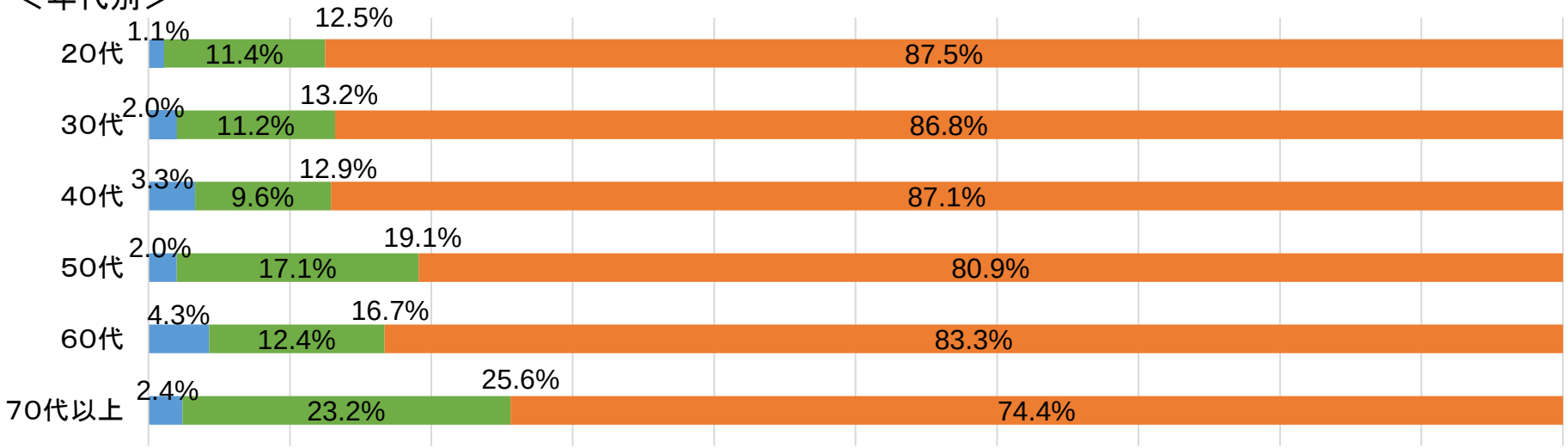
＜全体＞



- 「水の週間関連行事」に知っており参加したことがあるとの回答は、全体で2．7%でした。
- 「水の週間関連行事」の認知度は、全体で16．5%でした。
- 年代別の認知度では、70代以上が25．6%で最も高く、50代が19．1%と続きました。
- 昨年度との比較では、参加したことがあるという回答が増加した一方、認知度は20．0%から16．5%に減少しました。

■知っており、参加したことがある　■知っているが、参加したことはない　■知らない

＜年代別＞

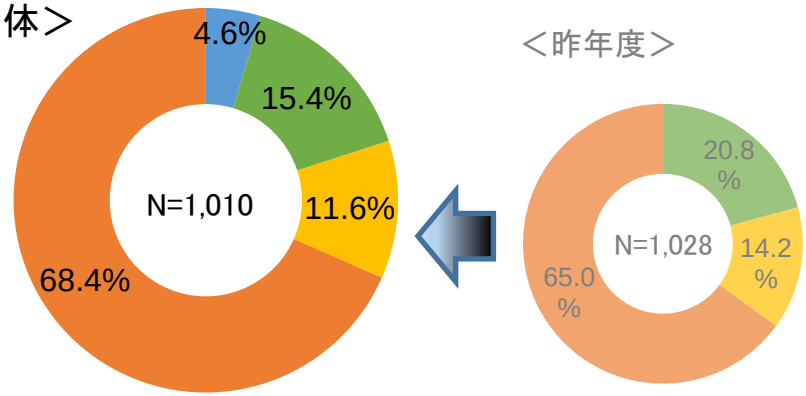


「水の週間」関連行事の応募意向【問4】

国土交通省

問4.「水の週間」関連行事として作品を募集している「水とのふれあいフォトコンテスト」や「全日本中学生水の作文コンクール」に応募などしようと思いますか。

＜全体＞

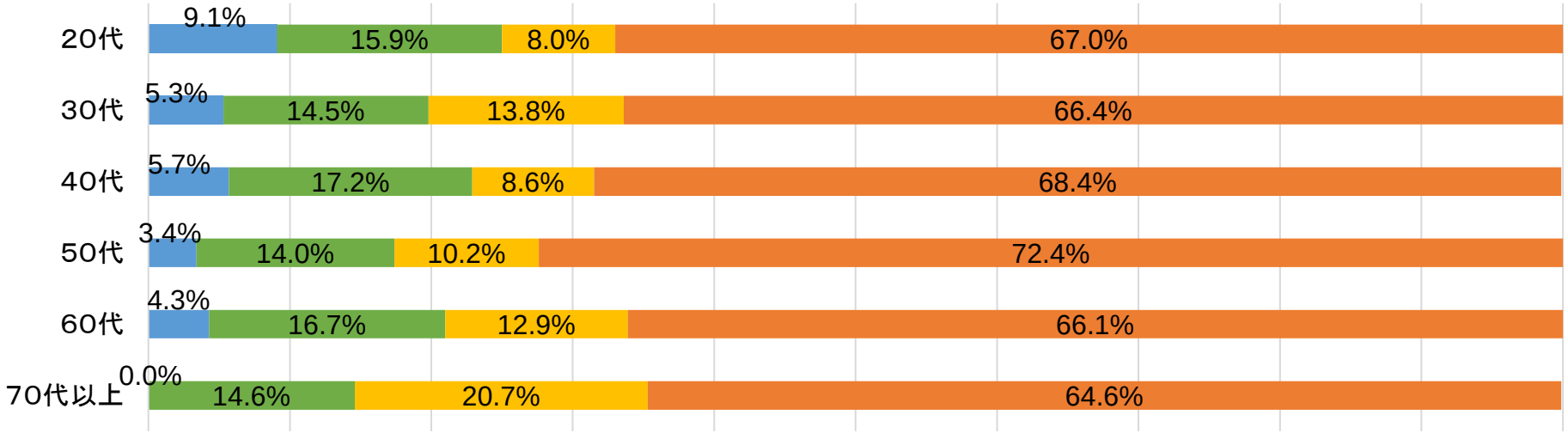


- 全体では、「応募するつもりはない」との回答が最も多く、「『水とのふれあいフォトコンテスト』に応募してみたい」との回答が続きました。
- 年代別に応募に興味のある回答を見ると、70代以上で「『全日本中学生水の作文コンクール』の応募を家族や知人に勧めたい」との回答が多く、それ以外の世代では「『水とのふれあいフォトコンテスト』に応募したい」との回答が多い傾向でした。

※ 今年度から「『水とのふれあいフォトコンテスト』、『全日本中学生水の作文コンクール』とも応募したい」の選択肢を追加しています。

- 「水とのふれあいフォトコンテスト」、「全日本中学生水の作文コンクール」とも応募したい（家族や知人等を応募させることを含む）※
- 「水とのふれあいフォトコンテスト」に応募したい
- 「全日本中学生水の作文コンクール」の応募を家族や知人に勧めたい
- どちらも応募するつもりはない

＜年代別＞

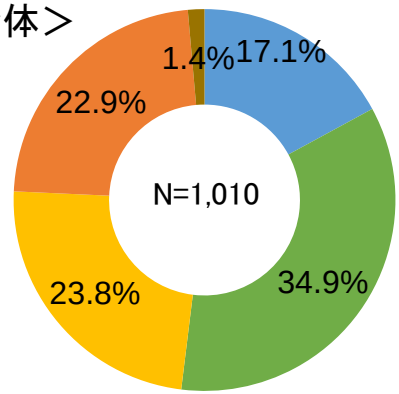


「打ち水」の実施等意向【問5】

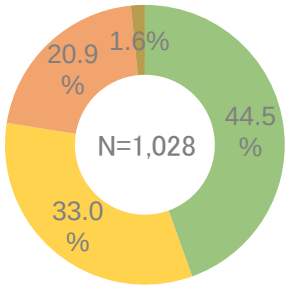
国土交通省

問5. 日本では昔から道などに水をまいて涼をとる「打ち水」が行われていましたが、「打ち水」を行ったり、打ち水イベントに参加などしてみたいと思いますか。

＜全体＞



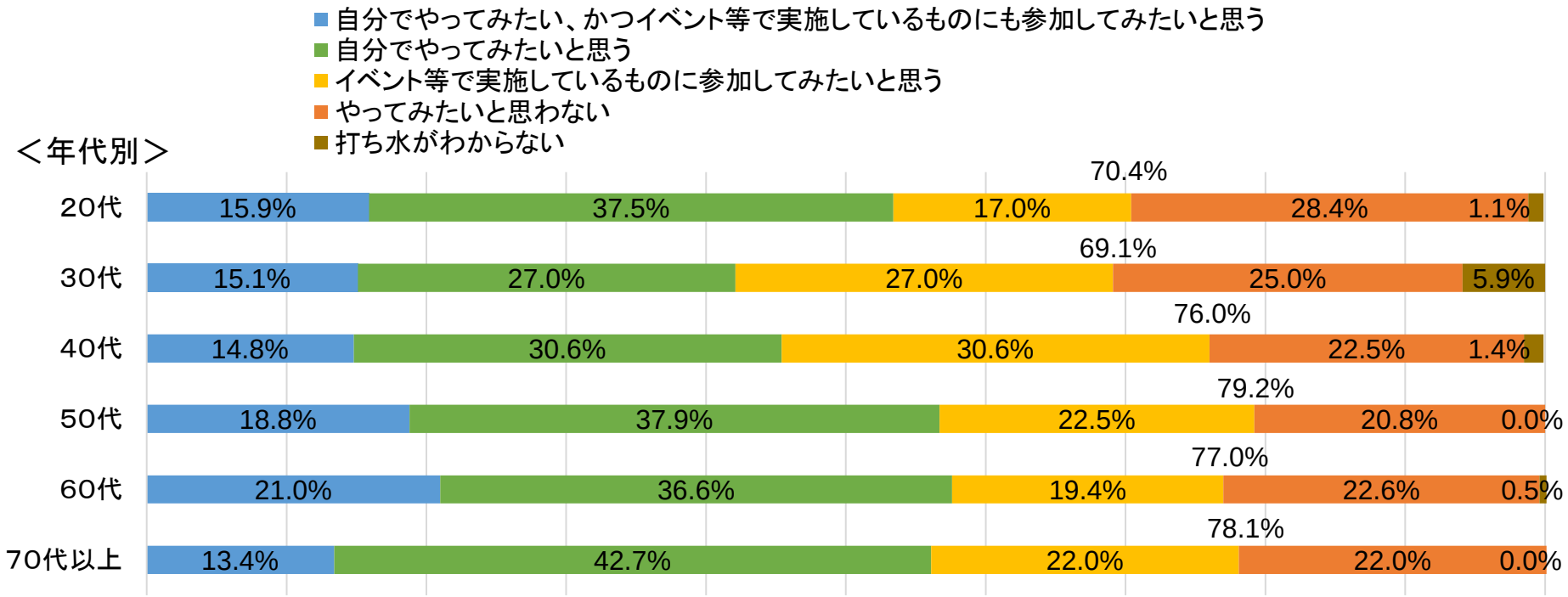
＜昨年度＞



- 全体では、「自分で」と「イベント等で」を含めると、75．8%の方が「打ち水」を「やってみたい」と回答しました。
- 年代別では、30代と40代では「自分でやってみたいと思う」と「イベント等で実施しているものに参加してみたい」という回答が同じ割合でした。それ以外の世代では、「自分でやってみたいと思う」という回答が多い傾向でした。

※ 今年度から「自分でやってみたい、かつイベント等で実施しているものに参加してみたいと思う」の選択肢を追加しています。

＜年代別＞

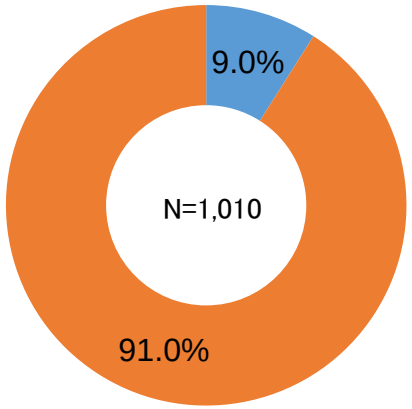


「水の日」の認知度向上の広報方法の認知度 【問6】

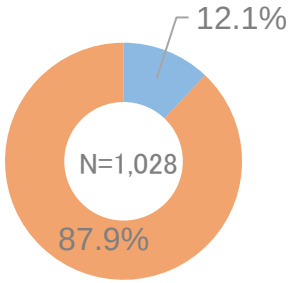
国土交通省

問6.「水の日」の認知度向上を図るため、ポケモンの「シャワーズ」を活用していることを知っていますか。

＜全体＞



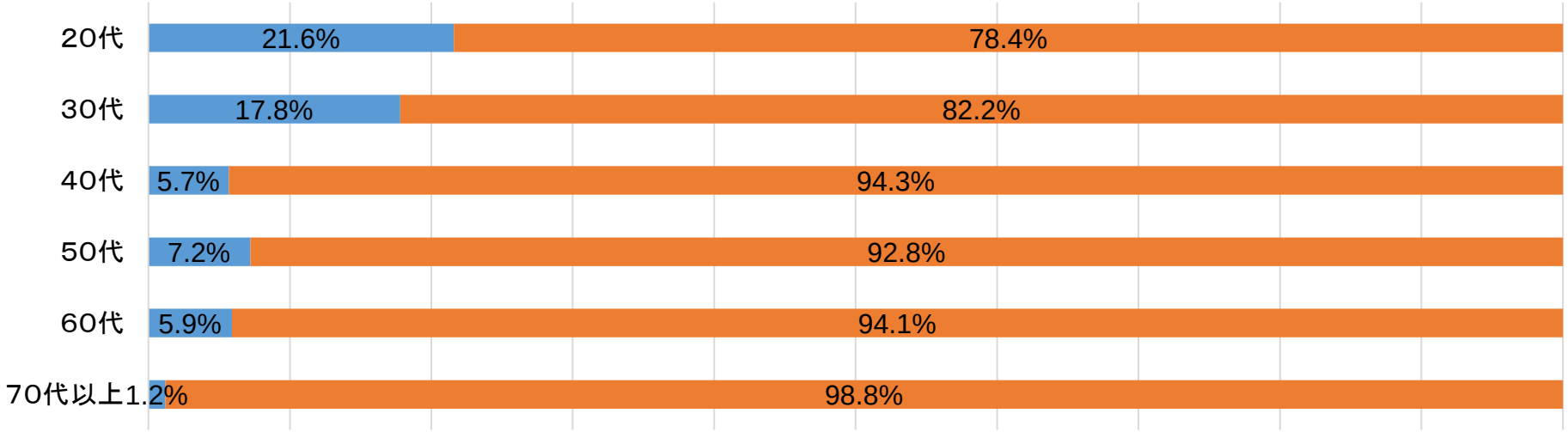
＜昨年度＞



■知っている　■知らない

- 全体で、「知っている」との回答は、9．0%でした。
- 年代別で、「知っている」との回答は、20代が21．6%で最も高く、次に、30代が17．8%で続くなど、若年層で比較的高い結果となりました。
- 昨年度との比較では、「シャワーズ」の認知度が全体で12．1%から9．0%に減少し、年代別では全ての年代で昨年度より減少しました。

＜年代別＞

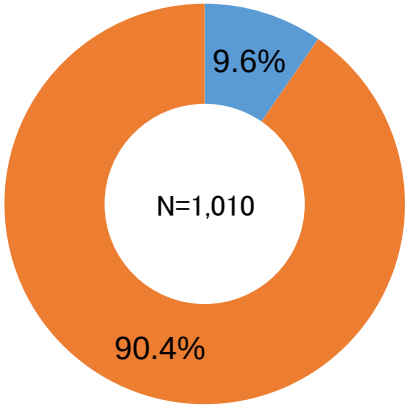


「水の日」ブルーライトアップの認知度 【問7】

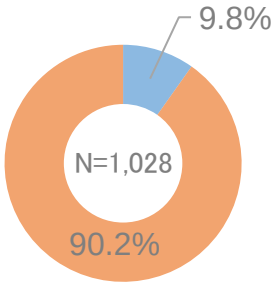
国土交通省

問7.「水の日」・「水の週間」の夜の「ブルーライトアップ」の取組を知っていますか。
※「ブルーライトアップ」は、8月1日～7日の「水の週間」期間中に、全国各地の施設を「水」を連想させるブルーの光でライトアップする取組です。

＜全体＞



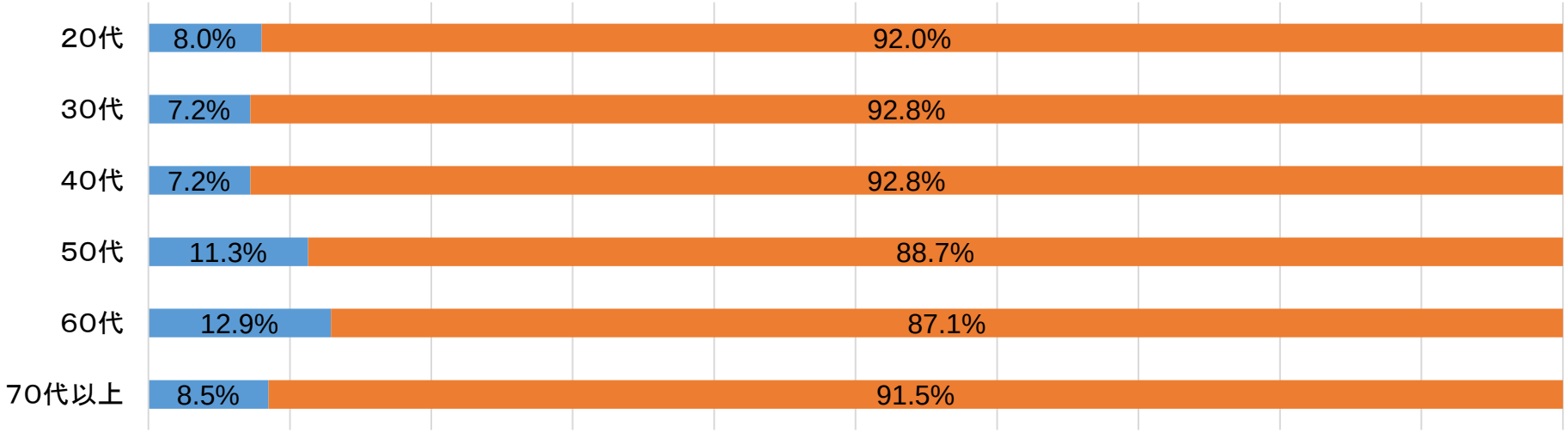
＜昨年度＞



■知っている　■知らない

- 全体で、「知っている」との回答は、9．6%でした。
- 年代別で、「知っている」との回答は、60代が12．9%で最も高く、次に50代が11．3%で続きました。
- 昨年度との比較では、「ブルーライトアップ」の認知度が全体で9．8%から9．6%に減少した中、50代と60代では昨年度より認知度が増加しました。

＜年代別＞

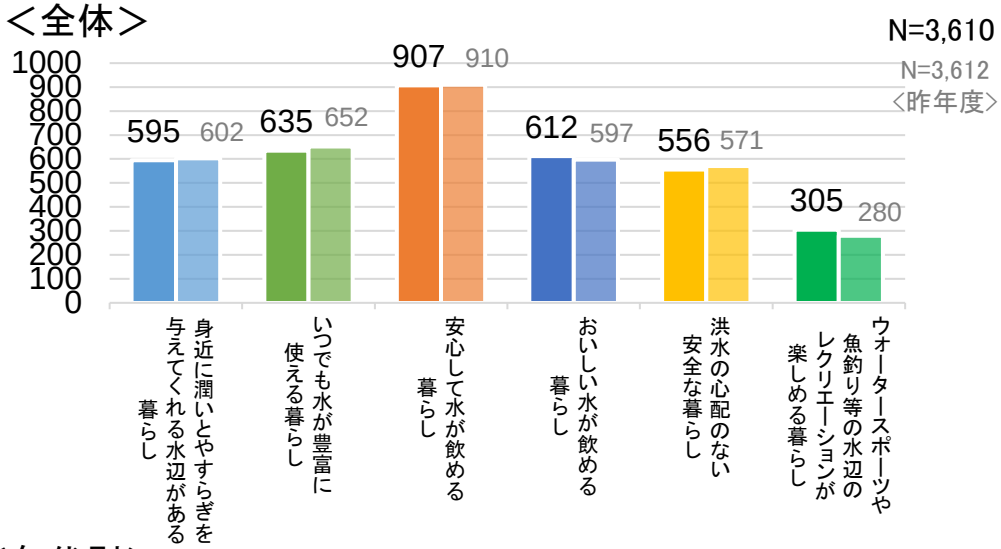


水とのかかわりのある豊かなくらしについて【問8】

国土交通省

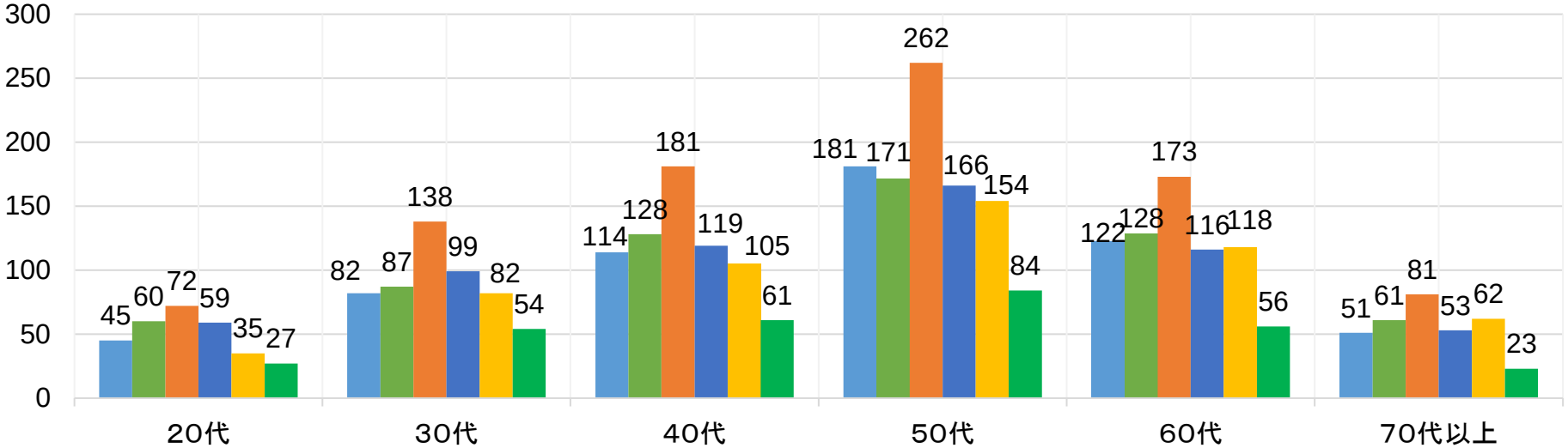
問8. 水とのかかわりのある豊かなくらしとはどのようなものと思いますか。
この中からいくつでもあげてください。（複数回答可）

＜全体＞



- 全体では、水とのかかわりのある豊かなくらしとはどのようなものと思うかという質問に対して、 まんべんなく回答がありましたが、「安心して水が飲める暮らし」が最も多い回答数となりました。
- 年代別で見ても、全ての年代で、「安心して水が飲める暮らし」が最も多い回答数となりました。
- 昨年度との比較では、概ね横ばいの結果となりました。

＜年代別＞

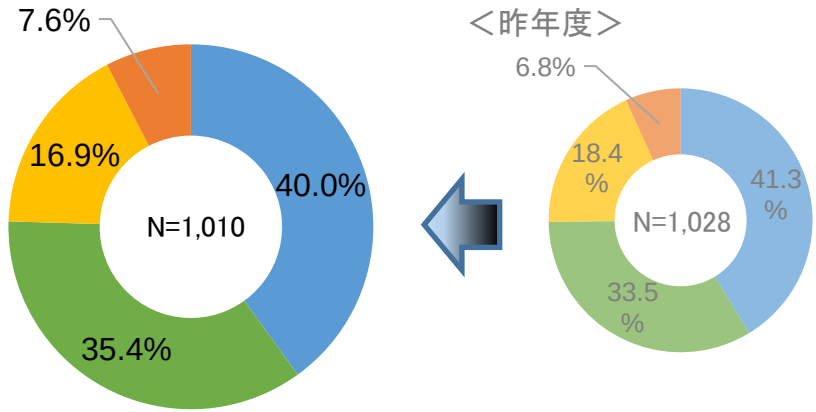


水道の水の水源について【問9】

国土交通省

問9. あなたの使っている水道の水の水源は何かご存じですか。

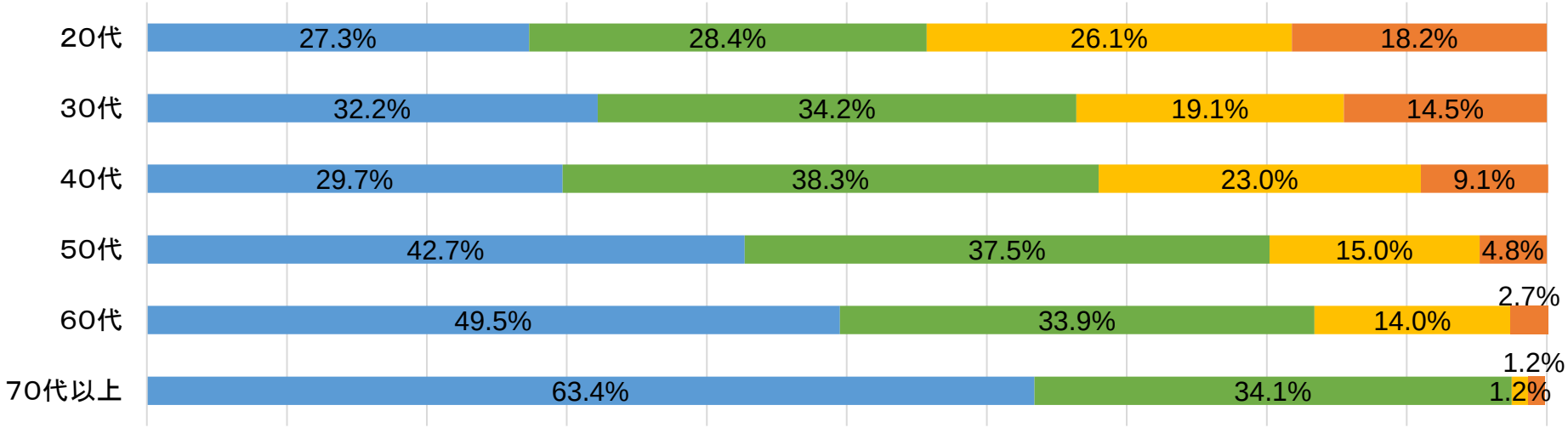
＜全体＞



- 水道の水の水源を「知っている」又は「ある程度知っている」との回答は、全体で約75%でした。
- 年代別で見ると、「具体的な河川や湖の名まで知っている」との回答は70代以上が63．4%と最も高く、次に60代が49．5%と続きました。
- 昨年度の比較では、概ね横ばいの結果となりました。

■知っている（具体的な河川や湖の名などまで知っている）　■ある程度知っている（河川や湖などであることは知っている）
■あまり知らない（漠然としか知らない）　■知らない

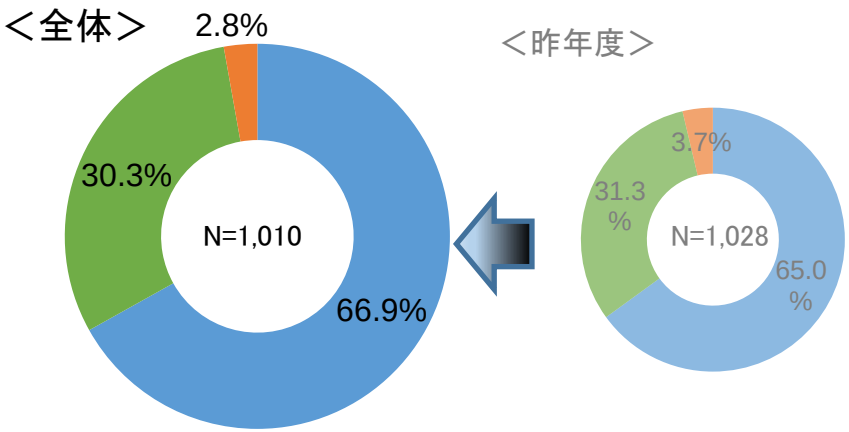
＜年代別＞



水道水の質について【問10】

国土交通省

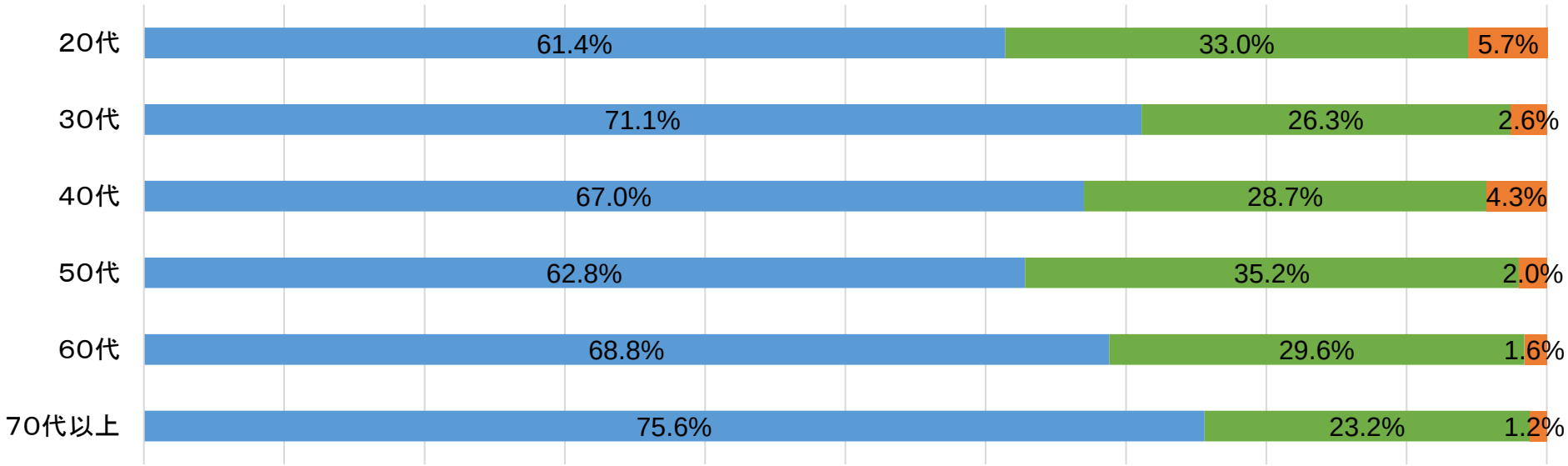
問10. 現在使用している水道水の質について 満足していますか。



- 全体では、「全ての用途において満足している」の回答が、約67%と最も高い結果となりました。一方、「飲み水以外の用途において満足している」の回答が、約30%であったことから、約30%の方々が飲み水の用途として満足していないことがわかりました。
- 年代別で見ると、「全ての用途において満足している」との回答が、全ての年代で60%以上と高い結果となりました。
- 昨年度の比較では、「全ての用途におうて満足している」の回答が全年代で増加する結果となりました。年代別では、30代の「全ての用途において満足している」の回答が54．6%から71．1%に大幅に増加しました。

■全ての用途において満足している ■飲み水以外の用途において満足している ■全ての用途において満足していない

＜年代別＞

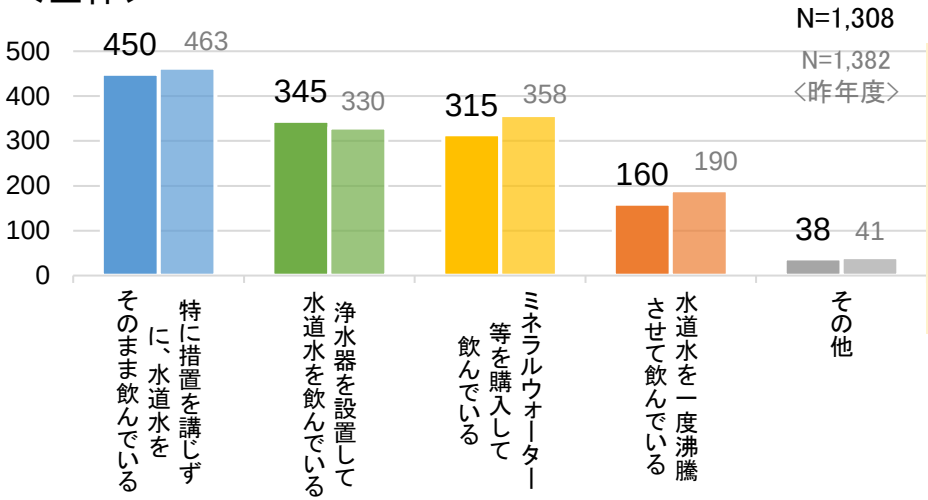


水の飲み方について【問11】

国土交通省

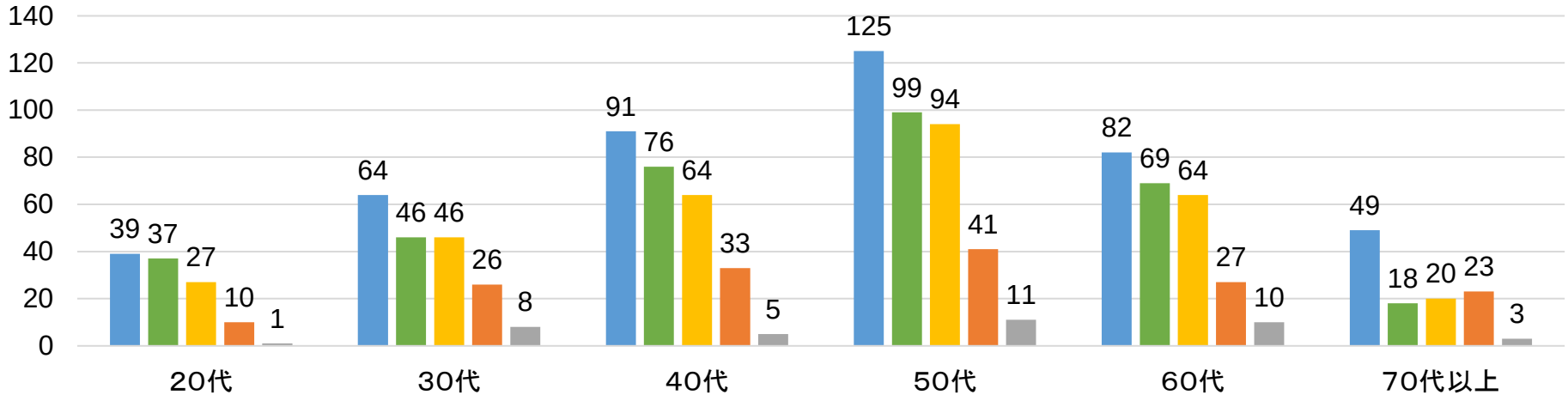
問11. 普段、水をどのように飲んでいますか。（複数回答可）

＜全体＞



- 全体では、「特に措置を講じずに、水道水をそのまま飲んでいる」との回答が、最も多い回答数でした。
- 年代別で見ても、全ての年代で、「特に措置を講じずに、水道水をそのまま飲んでいる」が最も多い回答数となりました。
- 昨年度との比較では、概ね横ばいの結果となりました。

＜年代別＞

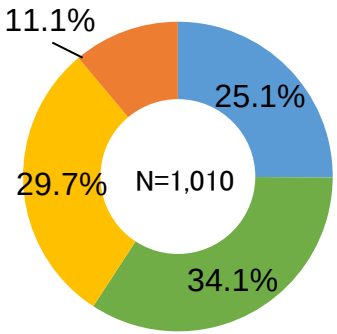


使った水の排水について【問12】

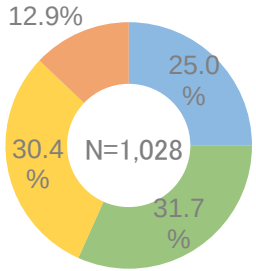
国土交通省

問12. あなたの使った水は、下水道や浄化槽を通じて、どこに排水しているかご存知ですか。

＜全体＞



＜昨年度＞

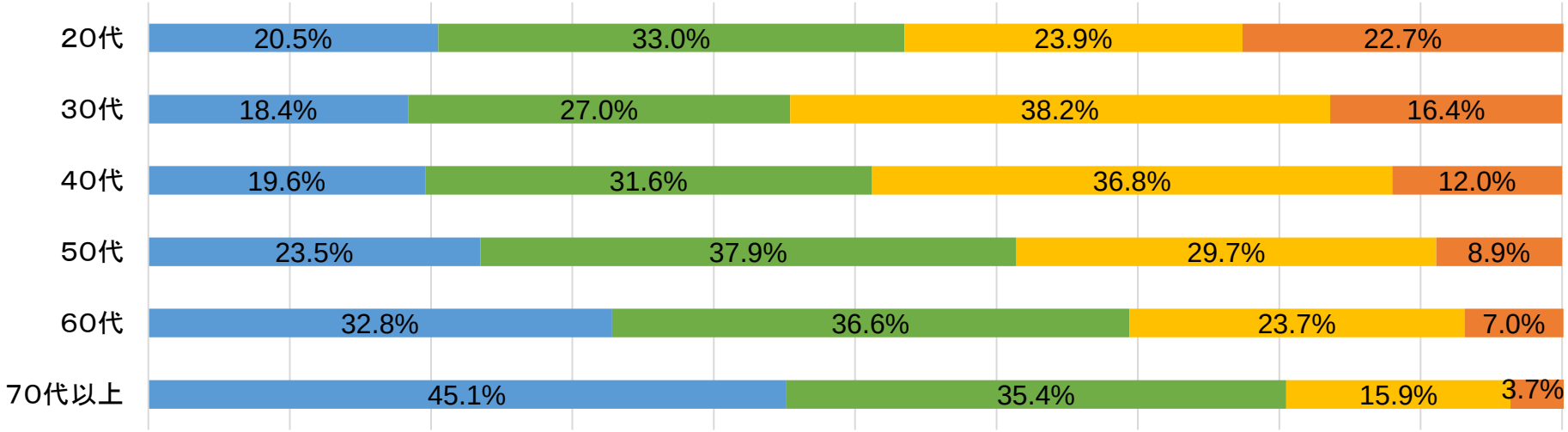


- 「使った水をどこに排水しているか知っている」又は「ある程度知っている」との回答は、全体で59．2%でした。
- 年代別で見ると、「具体的な河川や湖の名まで知っている」との回答は、70代以上が45．1%で最も高く、60代が32．8%と続きました。
- 昨年度との比較では、概ね横ばいの結果となりました。

■知っている（具体的な河川や湖の名などまで知っている）　■ある程度知っている（河川や湖などであることは知っている）

■あまり知らない（漠然としか知らない）　■知らない

＜年代別＞

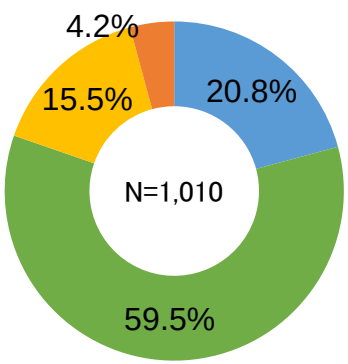


節水について【問13】

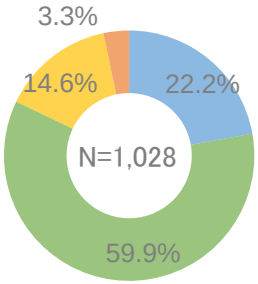
国土交通省

問13. 普段の生活で節水していますか。

＜全体＞



＜昨年度＞

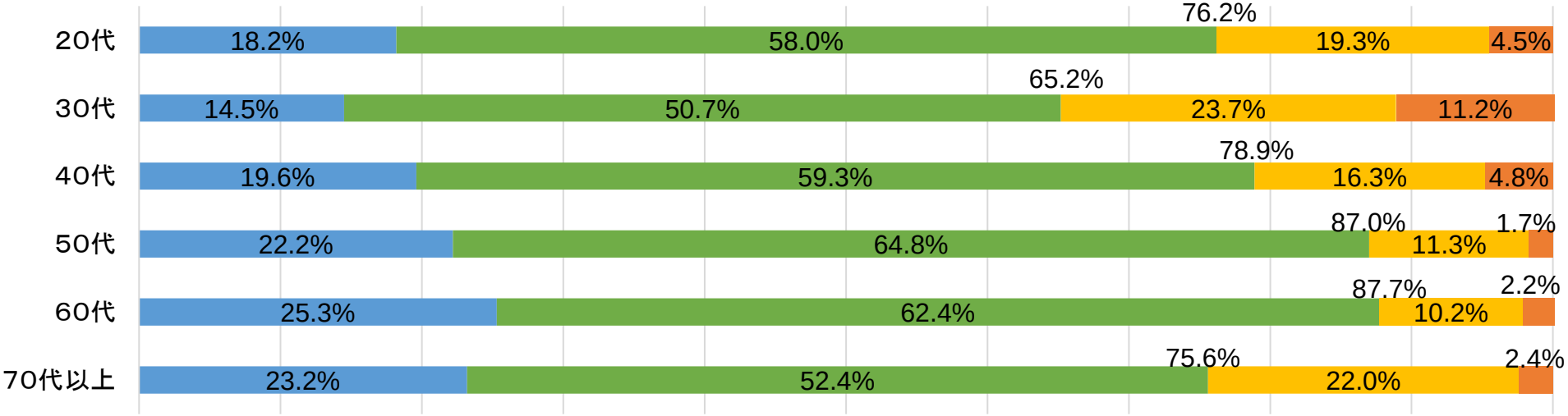


- 「節水している」又は「どちらかといえば節水している」との回答は、全体で約80%でした。
- 年代別で見ると、「節水している」又は「どちらかといえば節水している」との回答は、50代～60代において、約87～88%という高い結果となりました。一方、30代では、「どちらかといえば節水していない」又は「節水していない」との回答が約35%という結果となりました。
- 昨年度との比較では、全体としては概ね横ばいの結果となりましたが、70代以上で「節水している」との回答の割合が減少しました。

■節水している　■どちらかといえば節水している

■どちらかといえば節水していない　■節水していない

＜年代別＞

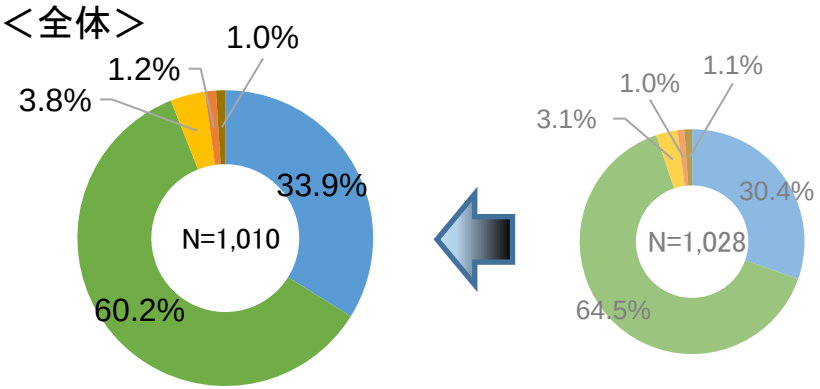


水の有効利用について【問14】

国土交通省

問14. 水の有効利用を図るため、一度使った水を処理した水や雨水等、水道水と比較して低水質の水が、さまざまな施設の水洗トイレや散水等に活用されています。このような水を使うことについてどう思いますか。

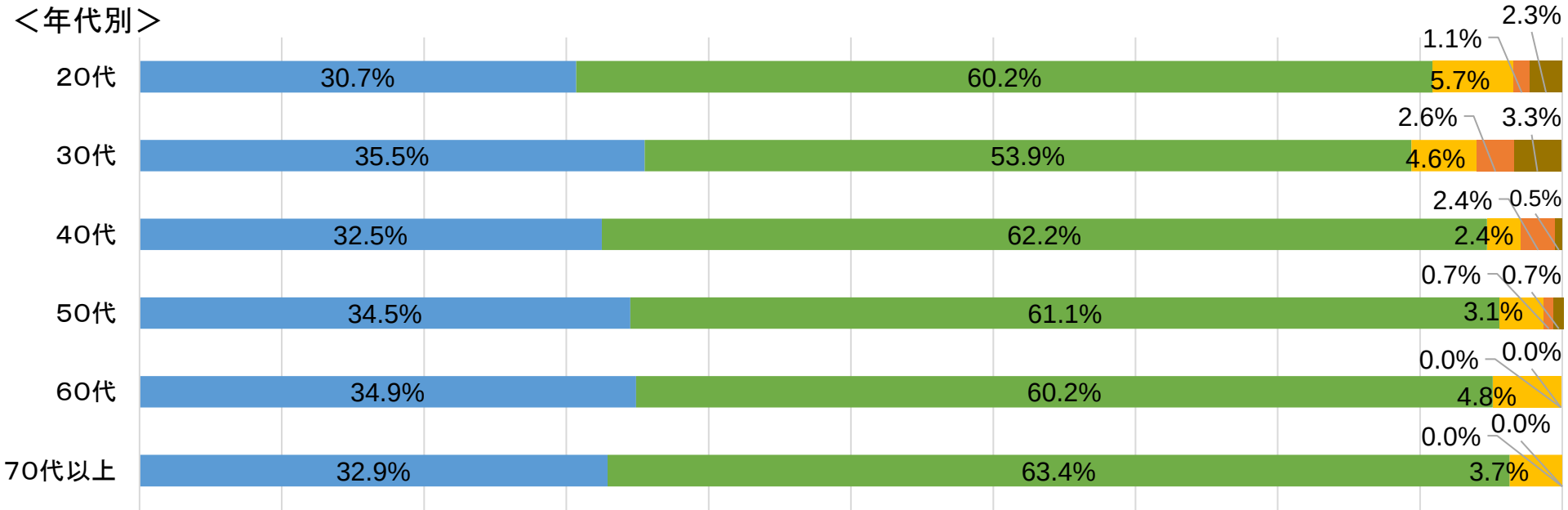
＜全体＞



- 全体では、「積極的に使いたい」又は「用途に応じた水質であれば使いたい」との回答は、全体で約94%でした。
- 年代別に見ると、「積極的に使いたい」又は「用途に応じた水質であれば使いたい」との回答が、全ての年代において、回答数が多い結果となりました。
- 昨年度との比較では、概ね横ばいの結果となりました。

■積極的に使いたい　■用途に応じた水質であれば使いたい　■あまり使いたくない　■使いたくない　■わからない

＜年代別＞



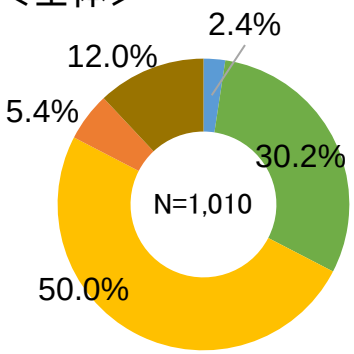
水の有効利用について【問15】

国土交通省

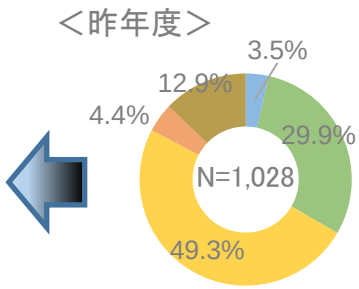
問15. 雨水を住宅の庭先等に貯めたり、地下へ浸透させたりする施設は、水洗トイレや散水等に活用することで節水となるほか、緊急時の生活用水確保や地下水を保つ等、様々な効用があります。
一方、導入には費用がかかりますが、これらの雨水貯留浸透施設（※）を導入したいと思いますか。

※雨水貯留浸透施設とは、雨水を貯留してトイレの洗浄水や散水等の雑用水として利用する施設（タンク等）と、雨水を地下に浸透させて下水道・河川への流出量を抑制する施設（ます等）のことです。

＜全体＞



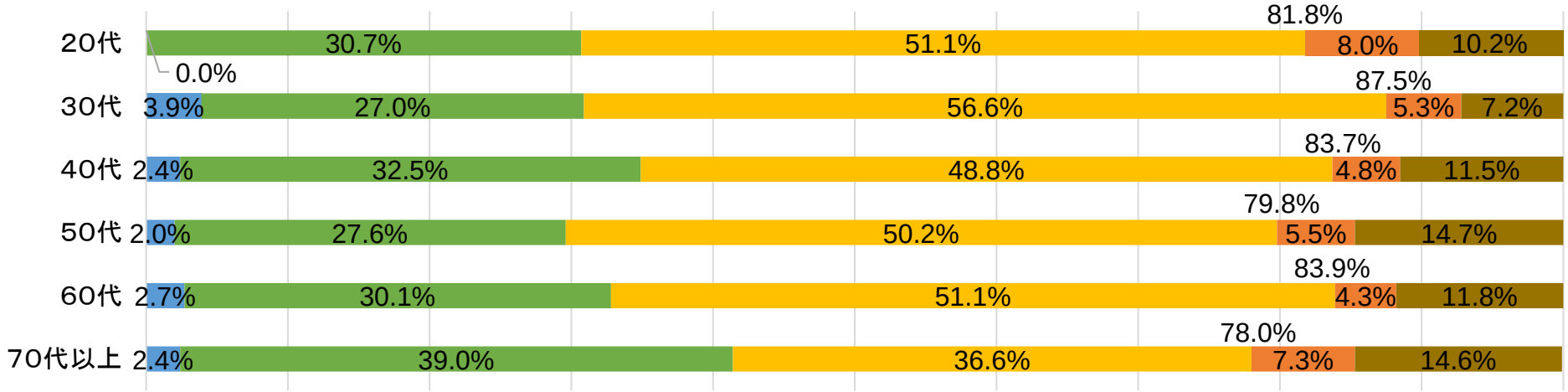
＜昨年度＞



- 全体では、「国や自治体の補助がなくても導入したい」との回答は2．4%で、「一部又は全額補助があれば導入したい」を含めた回答は、全体で82．6%でした。
- 年代別で見ると、「補助がなくても導入したい」又は「一部又は全額補助があれば導入したい」との回答は、全ての年代において約78%～88%という高い結果となりました。
- 昨年度との比較では、概ね横ばいの結果となりました。

■国や自治体の補助がなくても導入したい　■一部でも、国や自治体の補助があれば導入したい　■全額、国や自治体の補助があれば導入したい
■導入したくない　■わからない

＜年代別＞

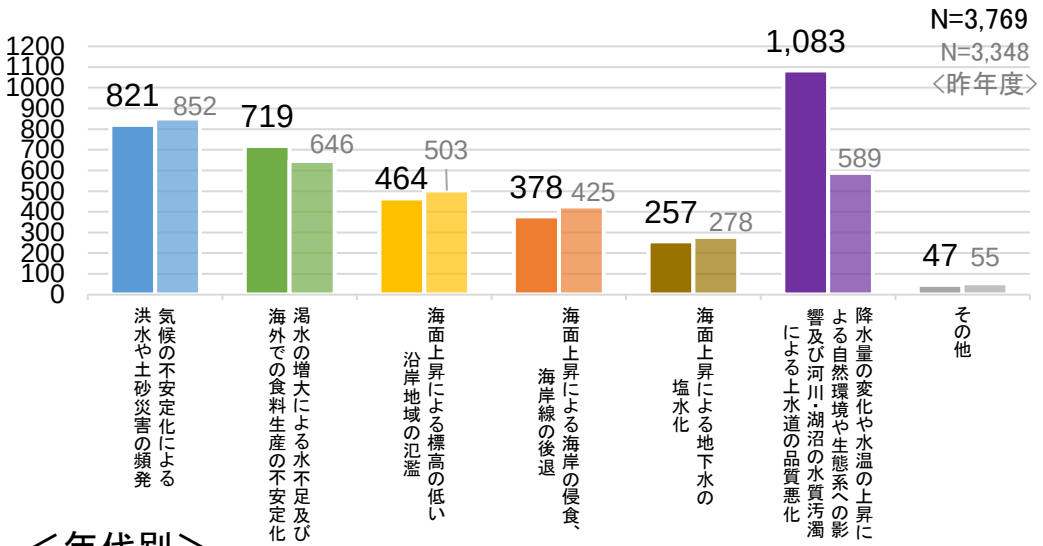


気候変動の影響による心配点について【問16】

国土交通省

問16. 世界的に、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、水問題がさらに深刻化することが懸念されています。あなたは、どのようなことが心配だと思いますか。（複数回答可）

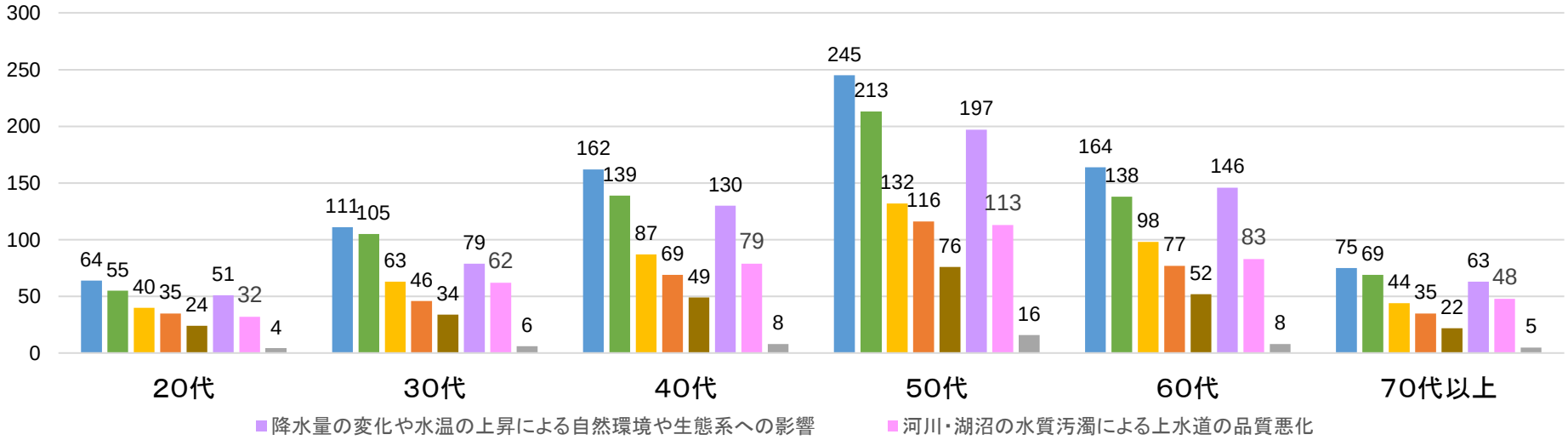
＜全体＞



- 全体では、「気候の不安定化による洪水や土砂災害の頻発」との回答が、多い回答数となりました。※
- 年代別で見ても、全ての年代で、「気候の不安定化による洪水や土砂災害の頻発」との回答が、最も多い回答数となりました。
- 昨年度との比較では、海面上昇に関する項目の回答数が減少し、洪水や土砂災害、渇水等に関する項目の回答数が増加しました。

※ 今年度から「降水量の変化や水温の上昇による自然環境や生態系への影響」と「河川・湖沼の水質汚濁による上水道の品質悪化」の選択肢を2つに分けていますが、＜全体＞のグラフでは昨年度と項目を揃えるため、2つの選択肢の回答者数を合計しています。

＜年代別＞

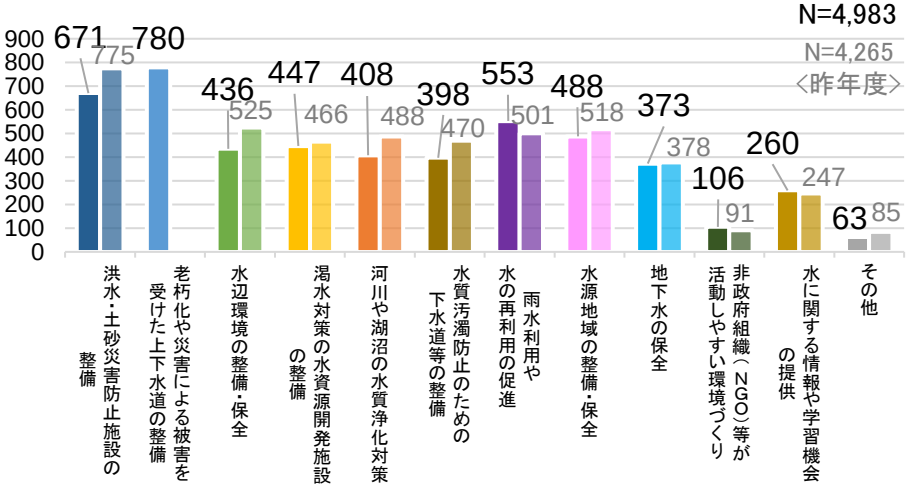


行政に力を入れて欲しいことについて【問17】

国土交通省

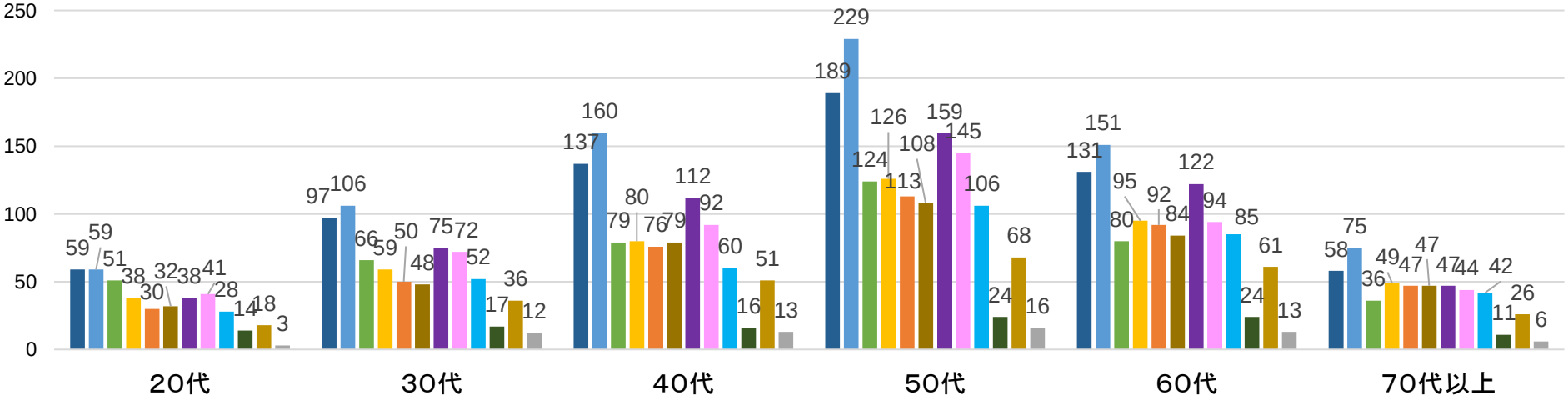
問17. 水とかかわりのある豊かな生活を将来にも続けていくために、あなたが行政に力を入れて欲しいと思うことはなんですか。（複数回答可）

＜全体＞



- 全体では、「洪水・土砂災害防止施設の整備」、「老朽化や災害による被害を受けた上下水道の整備」との回答が、多い回答数となりました。
- 年代別で見ると、全ての年代において、「老朽化や災害による被害を受けた上下水道の整備」との回答が、最も多い回答数となりました。
- 昨年度との比較では、今年度から選択肢を追加した「老朽化や災害による被害を受けた上下水道の整備」の回答数が多く、その他の選択肢は概ね横ばいの結果となりました。

＜年代別＞



まとめ

- 「水の日」・「水の週間」の認知度は、両方またはどちらか一方を知っているとの回答が全体で27．8％であり、約4人に1人が知っている結果となりました。（問2より）
- 「水の日」の認知度向上を図るため、ポケットモンスターのキャラクター「シャワーズ」を活用していることを「知っている」との回答は、全体では、9．0％で、年代別で見ると、20代が21．6％で最も高い結果となりました。（問6より）
- 令和2年度から実施している「水の日」ブルーライトアップの認知度は全体で9．6％で、年代別では60代が12．9％で最も高く、次に50代が11．3％で続く結果となりました。（問7より）
- 気候変動の影響による心配点について、全体では、「気候の不安定化による洪水や土砂災害の頻発」との回答が、最も多い回答数となりました。（問16より）
- 行政に力を入れて欲しいことについて、今年から選択肢に追加した「老朽化や災害による被害を受けた上下水道の整備」が最も多い回答数となりました。（問17より）